

法語カレンダーと施本

法語カレンダーについて

親鸞聖人によって顕らかにされたお念仏のみ教えは、これまで多くの人々によって、日本だけでなく世界中に伝えられていきました。そのみ教えを広く伝えていくのが、真宗十派といわれる、浄土真宗本願寺派(本山西本願寺)、真宗大谷派(東本願寺)、真宗高田派(専修寺)、真宗松本派(松本願寺)、真宗興正派(興正寺)、真宗木辺派(錦織寺)、真宗出雲路派(毫攝寺)、真宗誠照派(誠照寺)、真宗真宗門徒派(専照寺)、真宗山元派(證誠寺)の十派です。

これらの宗派は、一九六九(昭和四十四)年、不安と混乱の現代社会にあつて、浄土真宗の教えを広くお伝えするために、真宗教団連合を組織しました。以来、共同してさまざまな活動に取り組んでおり、その一つが、一九七三(昭和四十八)年から続く、法語カレンダーの発行です。

二〇二〇(令和二)年の法語カレンダーのテーマは、「宗祖親鸞聖人に遇う」です。二〇二二(令和四)年には、宗祖親鸞聖人が誕生して八五〇年を迎えることから、あらためて親鸞聖人に遇う機縁になることを願ひ、親鸞聖人の教えにふれた先達の方々の中から選定し、掲載いたしました。本年は挿絵の中からタレントとしても有名な片岡鶴太郎氏の絵画を掲載しています。日々の生活の中で味わひながら、共々にお念仏を申し歩んでいく機縁となることを願っています。

月	法 語	
表 紙	念仏となって私の口から現われて下さる み仏のはたらき	松尾野潮音
1	私を生かしておる力というものに帰っていく歩、それが仏道	宮城 凱
2	念仏者の人生はまさに慚愧と歓喜の交錯	梯 實圓
3	私の上にあるものは全部賜うたものである	細川 巖
4	如来さまより最も遠い身が実は最も近い身でありました	和氣 良晴
5	己れに願ひはなくとも願ひをかけられるのだ	藤元 正樹
6	信心というのは凡夫が仏さまと同じ命を共有するという出来事	大峰 顯
7	人間は我を知らず、我ほど知り難いものはないのである	高光 大船
8	まあ、どこにおってもお慈悲の中だからのう	山本 仏骨
9	如来の願心が我一人に成就したのが、信心である	安田 理深
10	老いが、病いが、死が、私の生を問いかけている	二階堂行邦
11	人間そのものの目ざめを呼びかけるものが如来の本願である	中西 智海
12	今日である あること難き 今日である	藤代 聡磨

師走に入り、慌ただしさを感じます。世間の動向ではなく、当山の報恩講準備にあくせく動き回っているせいかもしれません。

二〇二〇(令和二)年はコロナに始まりコロナに終わりそうです。一刻も早く通常に戻りたいですね。

秋参り(家庭報恩講)と恩講(地区報恩講)のご縁で各家庭のお仏壇にお参りし、明年の法語カレンダーと施本をお届けしました。施本は当山の報恩講までにご一読ください。

さて、新年を迎える前のお仏壇、大掃除とお給仕(金箔にさわらないようにきれいなタオルでふき掃除をし、香炉の中を掃除し、供物を供え、仏花を生花で活けるなど)をしてください。

掃除が終わったら仏間の適当なところに法語カレンダーをかけて、明年、月ごとにめくりながら、朝夕、法味あふれる言葉を読んでください。

最後に、法語カレンダー裏面の「法語カレンダーについて」と題したコラムを例年のとおり老婆心から上記に掲載しました。

この一年、寺報を見ていただきありがとうございました。

法語の世界

《原文》

おなじく夢にはく、近年、大永三、正月一日の夜の夢にはく、野村殿南殿にて前々住上人(蓮如)仰せにはく、仏法のこといろいろ仰せられ候ひて後、田舎には雑行雑修あるを、かたく申しつくべしと仰せられ候ふと云々。

〔蓮如上人御一代記聞書〕二百五十五

《現代語訳》

これも蓮悟さまの夢の記録です。
大永三年正月一日の夜の夢である。山科本願寺の南殿で、蓮如上人が「法義についていろいろとお話しになった後で、「地方にはまだ自力の心のもものもいるが、その心を捨てるよきうきびしく教え導きなさい」と仰せになったのである。

《用語の解説》

大永三……一五二三年。
野村殿……山科本願寺のこと。

二〇二〇(令和二)年

金光寺報恩講のお知らせ

日時

- 十二月十五日 午前十時〜 日中法要(上下参り)
(九区・十三区・十四区地区)
- 午後六時〜 速夜法要(お番)
- 十二月十六日 午前十時〜 日中法要(中央参り)
(十区・十一区・十二区地区)

講師

熊本教区 飽田組 浄行寺住職
浄土真宗本願寺派布教使 盛 忍 師

その他

お参りの際は、門徒式章、念珠と聖典(お経本)をご持参ください。

本年から十二月十五日の速夜法要は開始時間を「午後六時」に変更しました。

報恩講期間中の日中法要(午前十時からの法要)にお仕事等でお参りできない方は、十二月十五日午後六時からの速夜法要にお参りください。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、必ずマスクを着用してご参詣ください。体調不良の方は参詣をご遠慮ください。また、法要後のお参りについては、感染拡大防止のためお配りします。ご自宅でお召し上がりください。

浄土真宗で一番重要な法要・法座に多くの方のご参詣をお待ちしております。是非、ご勝縁をお結びください。